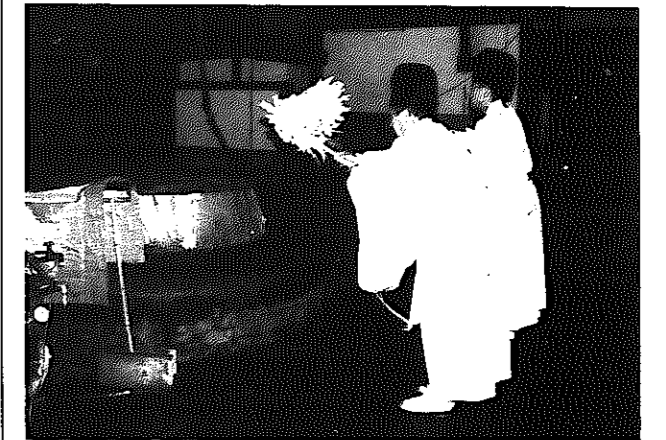


「白根唯一の地酒を守り育てていこう」と、市民有志が出資して酒蔵再興を目指している横山酒造（新飯田・滝沢貞一社長）。十二月二十日、同酒造の作業場で、仕事始めの蔵開きが行われました。横山酒造は一昨年、後継者がいないことから一時は廃業を決意。これに対し今年六月、地酒絶滅を憂いだ市民が資本金を出資。新たなスタートを切ったのです。蔵開きの神事は三年ぶりのこと。神事後の株主総会で、滝沢社長は「文化の薫りのする酒『さか鶴』を守っていこう」とあいさつ。出資者らと共に、地酒復興に向け決意を新たにしていました。

白根の地酒を守っていこう 横山酒蔵 蔵開き



大通一丁目、二丁目の両自治会で一月十五日、小正月の火祭り行事「さいの神」が行われました。昭和五十八年に、自治会の融和と子供たちの思い出づくりを目的に始められ、今年で十三回目となるこのさいの神。毎年恒例の行事となつていきます。準備作業は自治会野球部が中心となり、また当日振る舞われた甘酒などは、お年寄りの集まり「むつみ会」が担当。地域ぐるみで盛り上げます。さいの神は邪霊を追い払う神。年男、年女の小学生が火を入れると勢よく燃え上がり、邪霊を追い払うように、パンパンと青竹が威勢よくはじけていました。

子供たちに思い出を 大通1丁目・2丁目 さいの神



市農業振興協議会では、農業後継者対策の一環として、一月六日、サルナート吉運堂で、青年農業者就農研修会を開催しました。農業を志す若者を対象としたこの会は、さながら「農業の就職説明会」といったところ。農業大学や高校の生徒ら十人が参加しました。研修会では、小田信雄さん（篠笛）の「農業従事の素晴らしさ」と題した講演会のほか、農業者支援制度の紹介なども行われました。春から家の農業を継ぐという大学生は「補助制度など勉強になりました。『農業大学講座』は面白そうなので、参加して仲間を増やしたい」と話していました。

若者に農業の「就職説明会」 市農振協議会 就農研修会



一月二日・三日、しろね大風と歴史の館が無料開放され、大勢の人でにぎわいました。特別展示室には、新春特別企画「めでた風づくし展」を題して縁起物の江戸風などが飾られ、館内は華やいだ雰囲気。久しぶりにふるさとに帰ってきた人たちは、昔の大風合戦の映像を懐かしそうに見たり、展示されているたくさんさんの風に驚いたりしていました。また、無料開放期間中は、レクチェや白根の地酒「さか鶴」が振る舞われました。豪華商品の当たる福引きも行われ、当たった人は、「新年早々、縁起がいいね」と嬉しそうに話していました。

新年早々大にぎわい しろね大風と歴史の館



おたまじゃくしの家 クリスマスお楽しみ会



手をつなぐ親の会・肢体不自由児父母の会 クリスマス会



おどおり クリスマスコンサート

楽しさいっぱい クリスマス会

昨年十二月は、市内各地でたくさんの方々がクリスマス会を開かれました。十二月十四日には、通所作業所「おたまじゃくしの家」で、クリスマス会が開かれました。雪が降るあいにくの天気にもかかわらず、BSNラジオでおなじみの大倉修吾さんも駆け付けました。通所生による演劇や全員参加のゲームも行われ、ひと足早いホワイトクリスマスを楽しみました。十二月十八日には、「おどおりクリスマスコンサート」と「手をつなぐ親の会と肢体不自由児父母の会のクリスマス会」が行われました。おどおりクリスマスコンサートには、大通地区に住む親子ら八十人が参加。ピアノ教室の先生、生徒らによるクリスマスソングを楽しみました。会場の大通地域生活センター内は手作りの壁掛け、ツリーなどがいっぱい。曲に合わせ歌ったり踊ったり、笑顔あふれるコンサートでした。クリスマス会はカルチャーセンターで開かれ、障害児とその親を含め二百人近くが参加。最初に、来賓がふんするサンタクロースからプレゼントが贈られ、子供たちは大喜び。小・中学生たちが寸劇や歌などを披露したほか、味方村の子供たちの殺倉太鼓なども行われ、参加者全員で楽しいひとときを過ごしました。



カレンダー196点を展示 白根地区公民館 '95カレンダー展

事業所や各家庭で余ったカレンダーを提供してもらい、展示する「'95カレンダー展」が、十二月十六日から十九日までの五日間、中央公民館で開かれました。展示されたカレンダーは、風景やアイドルのカレンダーなど百九十六点。展示されたカレンダーは、抽選で希望のものもらえるというので、訪れた人たちは、どれにしようかと、一つ一つじっくり眺めていました。会場を訪れたある女性は「去年はお目当てのカレンダーが当たったので、今年も当たるといいなと思って、また来ました」と話していました。



雪の中を堂々と行進 白根地区消防本部 出初め式

白根地区消防本部と白根市消防団合同の出初め式が、一月六日、白根地区消防署などを会場に行われました。雪模様の厳しい寒さの中で行われた分列行進には、徒歩による消防団員九十人と消防車や救急車など車両十五台が参加。住民に火の用心を訴えると共に、火災に備える気持ちを新たにしました。会場を産業厚生会館に移しての式典では、竹内市長、棒消防長、安藤消防団長があいさつ。竹内市長は「消防署、消防団は火災や災害に対する第一線の活動機関。責務を理解し、ますますの努力をお願いします」と激励しました。